

ポスターセッションの記録

① えびの市小体連

<p><b>運動の楽しさに触れ、自ら身体能力を身に付けようとする児童の育成</b>  <b>～「できる・楽しい」を実感させるボール運動の指導方法の工夫を通して～</b></p> <p>発表者（えびの市立加久藤小学校 御手洗洋太）          進行・司会者（えびの市立真幸小学校 中山 恵二）          記録者（西都市立穂北小学校 水俣 輝男）</p>
--

発言者	内 容
南小 田爪先生 発表者	<p>授業前のウォーミングアップで、児童がタオルを使用して投げる動作やキャッチボール等を行っていた。その利点があれば教えてほしい。</p> <p>準備運動としてタオルを投げる動作を行うことで、少しずつ肩に負荷がかかり、可動領域を徐々に広げることができるという利点がある。タオルを丸めて投げる動作はボールをパスする動きにつながり、床に叩き付ける動作はアタックにつながる。また、タオルはボールよりも投げる距離が短いので、狭い場所でもウォーミングアップを行うことができる。</p>
都農南小 福田先生 発表者	<p>研究主題に「自ら身体能力を身に付けようとする児童」とあるが、具体的にはどのような児童の姿なのか。そして、どのように身に付けさせるのか。</p> <p>主に体力を高める動きが自らできる児童と考える。ボール運動であれば、ボールを持った時の動きはもちろんのこと、ボールを持たない時の動きでも考えて動けることである。その動きは、教師が動きのポイントを適確に指導したり、チーム内での児童相互の教え合い等を行ったりするなど、人とのかかわり合いの中で高められると考えている。</p>
綾小 喜田先生 発表者	<p>副題の「できる・楽しい」が実感できるボール運動とは、どのような場面で実感できるのか。また、プレルボールで使用するボールに配慮はあるか。</p> <p>プレルボールに関しては、学習の始めはほとんど満足にプレイできなかったが、たくさん練習する中で、徐々に動きが身に付き笑顔でプレイできるようになった。使用するボールは、個に応じてボールの固さや大きさが違うボール等を用意し、どの児童もゲームに楽しく参加できるように支援した。</p>
南小 田爪先生 発表者	<p>ボールを持たない時の動きを指導する上で大切なことは何か。</p> <p>3年生のプレルボールの学習では、パスが連続でできる動きをめあてとし、パスがしやすいポジションに動くことなどが大切であることに気付かせた。ボールの跳ね具合やボールを打つ人の位置を見て周囲の児童が動いたり、ボールを打つ児童に対して、アンダーで打つかオーバーで打つかを声でアドバイスしたりするなど、ボールを持たない児童の動きが大切であることを指導した。</p>
県教育庁 スポーツ振興課 原田 誠 指導主事	<p>えびの市小体連においては、体の動かし方をあまり知らない児童の実態を踏まえ、巧みな動きや体づくり運動と関連させながら研究を進めてほしい。また、ボール運動において、苦手な児童などの実態を踏まえ、どこまでの研究内容を目指すのか、ゴールイメージを明確にして研究に取り組んでほしい。</p>

